

2023年6月20日

## 令和5年度第1回 海岸工学委員会委員会議事録

**開催日時：**令和5年6月20日（火）14:00～17:20

**開催場所：**オンサイト（対面）およびWeb（Zoom）によるハイブリッド会議

**出席者：**

【オンサイト】磯部相談役，柴山相談役，岡安相談役，佐々木前委員長，森委員長，北野幹事長，荒木，内山，遠藤，小野，加藤，川崎，木原，下園，鈴木，高川，保坂，山中。

【Web】喜岡相談役，秋山，五十里，入江，岩前，榎田，大井，太田，織田，柿沼，松田（加藤茂代理），神谷，久保田，越村，末岡，鈴木，田中，中村克彦，中村友昭，信岡，平野，松木，宮武，宮本，有川，遠藤，木原，八木（嶋原代理），松葉（田島代理），中下，西畑，原田，山城，渡辺，渡部（途中まで，猿渡代理），安田

議事録：榎田・北野

**相談役ご勇退ご挨拶：**磯部相談役と喜岡相談役から退任挨拶がなされた。

**前回議事録の確認：**前回委員会の議事録（WEB公開済）を確認した。

### 議事前報告

(1)第69回海岸工学講演会報告（北野幹事長）

第69回海岸工学講演会（横須賀）の開催状況の報告と開催協力関係者へ謝意が示された。

参加者数：講演会1074名，企画セッション254名，見学会40名

(2)2022年度活動評価（北野幹事長）

活動評価A，行事参加者数（講演会，研修会など）4839人，出版物購読者数44人

### 委員紹介（北野幹事長）

- ・委員の就任および交代が海岸工学委員会委員名簿（2023.6-2025.6）により確認された。
- ・通常号小委員会の委員：五十里委員→遠藤委員
- ・環境システム委員会への派遣委員：山中委員→遠藤委員
- ・水工学委員会への派遣委員：山城委員兼幹事→五十里委員
- ・土木学会出版委員会委員兼幹事：西畑委員兼幹事が継続

### 2023-2024年度委員長選挙（北野幹事長）

・委任者および出席者代理者を含む出席委員数（選挙後の入室者除く，41名）が定足数（委員定数47の2/3）に達していることを確認し，「土木学会海岸工学委員会委員長選挙細則（H25.6改正）」に則り，標記選挙を実施し，以下の結果となった。

予備投票選出者：森信人委員，渡部靖憲委員

第2回投票選出者：森信人委員

この結果により，森信人委員が2023-2024年度海岸工学委員会委員長に推薦され，森信人

委員の承諾をもって決定された。

佐々木前委員長の退任挨拶および森信人新委員長の就任挨拶がなされた。

#### **副委員長の推薦・承認，幹事長の指名，相談役の推挙（森信人新委員長）**

- ・森信人新委員長の指名の下，以下の通り承認された。  
副委員長：渡部靖憲委員  
幹事長：北野委員
- ・相談役として，後藤仁志元委員長が推挙され，承認された。
- ・小委員長の指名は，後日，委員長よりメールで報告されることとなった。

#### **第 70 回海岸工学講演会論文審査（山城小委員長，北野幹事長）**

- ・登録論文数：219 編（和文 208 編，英文 11 編）  
投稿論文による企画セッションは開催なし。直近 5 年に比べ減少。APAC 開催が影響。
  - ・査読者：116 名（幹事 22 名，海岸委 9 名，編集委 31 名，その他 54 名）
  - ・査読者割り当て：第 2 専門分野まで配慮，平均査読数 9.4 編/人
  - ・審査手順およびスケジュールが確認された。
  - ・第一段査読における査読者の平均点 3.78（6 点満点）は例年とほぼ同様であった。
  - ・評価点の分布から和文・英文の違いによる査読結果への影響は見られなかった。
  - ・査読結果は，18 点以上が 166 編，17 点が 16 編（内 2 または 1 がついた論文は 4 編），16 点が 18 編（内 2 または 1 がついた論文が 10 編，1 がついた論文は 1 編）であった。
  - ・採択案：16 点以上を採択する→採択論文数 200 編（採択率 91.3%）2021 年度より，要旨査読で講演会発表の採否を決め発表数を確保し，本論文査読は厳格に行うルールに。
  - ・16 点論文の 1 編に対して査読者 1 名から 1 点と採点された論文があったが，投稿要旨と査読コメントを論文編集小委員会幹部で確認，採択として進めた。
  - ・通常号からの発表希望はなし。
  - ・投稿数，採択数（採択率）と分野別状況の推移が示された。
  - ・第一段受付で 2 件が取り下げ。単著で 2 編投稿と投稿者が異なる要旨を投稿したため。
  - ・著者情報が記載された要旨が 8 編あった。Extended abstract との様式混同による。
  - ・査読者登録通知メールが届かない事例は今年度はない。システム更新の効果か。
  - ・査読者より二重投稿の指摘が 1 件あったが，既発表論文の講演の可能性があるので判断できなかった。結果的に査読者の評価が低かったため不採択となった。
- 次年度の新たな査読方式と合わせて投稿規定を見直す必要がある。
- ・第二段審査の状況：第一段通過 200 件中，本論文あり 159 件，なし 41 件
  - ・セッション割り当ての検討が報告された。
  - ・著者負担金（案）：特別号掲載・発表 40,000 円上限（見込み 35,000 円），要旨・発表 25,000 円，論文集 DVD3,000 円程度，4 万円以上の負担金増額をできるだけ回避する。

- ・ Jstage 掲載料 1.5 倍に上がる。業者：北大生協→アイワード

#### 第 70 回海岸工学講演会の準備状況について（原田委員）

- ・ 日程・場所：2023 年 11 月 14 日（火）、15～17 日（金）京都テルサ
- ・ APAC2023 と同時開催，オンサイト・オンライン参加のハイブリッド形式
- ・ オンサイト参加者はノート PC・ポケット Wifi・イヤホン持参（会場 Wifi は使用しない）
- ・ 会場としてホール（開会・閉会式）と 2 階の 4 部屋（発表）+1 部屋（事務局）を使用
- ・ 経費：会場・設備・雑費の合計見込み額（433 万円）が示された。
- ・ 講演会中の小委員会の開催は部屋の問題で困難→別日程など各小委員会で対応を検討
- ・ 海岸工学委員会は開催
- ・ 前日シンポジウム（13 時から会場準備可，開催時間 14～17 時まで，テルサの Wifi は使用しない，有線 LAN は有料で使用可）

#### APAC2023 の準備状況について（原田委員）

- ・ 日程・場所：2023 年 11 月 14 日（火）～17 日（金）京都テルサ
- ・ フルペーパー投稿 105 編（査読 5 編／人，他 182 件は口頭発表のみ）
- ・ 参加登録期間：6 月 10 日開始，発表者は 8 月 30 日までに 35000 円入金必要，一般参加者は 8 月 30 日まで 35000 円，10 月 13 日まで 50000 円
- ・ 参加登録料の払い戻しはできない。
- ・ Extended abstract の締め切りは 6 月 30 日
- ・ 宿泊手配の対応はしない。
- ・ カウンシルミーティング：17 日昼休み 1 時間程度
- ・ 開会式・閉会式の挨拶：青木先生・佐藤先生
- ・ 使用会場はテルサホール（式と発表），3 階の 5 部屋（発表）+1 部屋（事務局）
- ・ ハイブリッド開催，会場参加者はノート PC・ポケット Wi-Fi・イヤホン必要
- ・ 支出概算額（計 619 万円）が示された。

#### 第 71 回海岸工学講演会の準備状況について（渡辺委員）

- ・ 組織：アドバイザー松富英夫先生，佐々木幹夫先生，実行委員長 田中仁先生  
実行委員 13 名（今村，越村，有働，サッパシー，マス，小笠原，松林，菅原，三戸部，門廻，平川，齋藤，渡辺先生）
- ・ 日程・開催地：2024 年 11 月 6 日～8 日（5 前日準備）秋田市
- ・ 講演会是对面形式のみ，懇親会や見学会を実施予定
- ・ 会場：講演会は公共施設アトリオン（仮予約），委員会は状況によりにぎわい交流館 AU  
懇親会は講演会場付近で検討中（キャッスル，ANA クラウンプラザ）
- ・ 講演会と委員会の会場費の概算額（計 206.6 万）が示された。

- ・共催の調整やコンベンション補助申請など今後進める。

#### **第 58 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) 開催について (渡部委員)**

- ・日程：2023 年 8 月 31 日 (木) ～9 月 1 日 (金) (A, B コース並行開催)
- ・場所：北海道大学工学部
- ・テーマ：水工学に関する国際的課題, 今後我が国で取り組むべき課題
- ・講師：森, 佐藤, 内山, 有働, 田島, 伊藤, 渡部先生
- ・講師と参加者の懇親会検討中

#### **第 59 回水工学に関する夏期研修会 (B コース) 開催について (遠藤委員)**

- ・日程：2024 年, 場所：大阪公立大学, 関西地区で担当
- ・海岸工学委員会が幹事, テーマなど計画中

#### **Coastal Engineering Journal について (内山小委員長)**

- ・CEJ 小委員会メンバーが追加された (五十里先生, 猿渡先生, 鶴田先生).  
副小委員長に高木先生が追加された。
- ・IF が 3.289 に上昇 (2019 年 IF2.032, 2020 年 IF3.216)
- ・第 1 回審査決定まで平均 12 日, 第一回審査後決定まで平均 53 日, 採択率は 58%
- ・Editorial Board の拡充: Associate Editor-in-Chief に高木先生, Editor に鈴木先生, Associate Editor に 6 名追加
- ・最近発行号の紹介: 2022 年 12 月 Vol.64(4), 2023 年 3 月 Vol.65(1), 2023 年 6 月 Vol.65(2)
- ・2024 特集号: Progress of Ocean Wave Measurements, 14 編エントリー, Review paper 予定, 2024 年 3 月発行予定
- ・2025 年特集号: Interdisciplinary Exploration of Coastal Morphodynamics
- ・年間論文数は増加傾向にある (2022 年 143 編, 2021 年 130 編, 2020 年 126 編, 2023 年 6 月 5 日現在で 68 編)
- ・CEJ Award 2022 について選考プロセスを説明し了承され, 以下の論文が推薦された。  
“Large-scale physical modeling of broken solitary waves impacting elevated coastal structures”  
By Clemens Krautwald, Hajo Von Häfen, Peter Niebuhr, Katrin Vögele, David Schürenkamp, Mike Sieder & Nils Goseberg, Coastal Engineering Journal, 64:1, 169-189, 2022.
- ・CEJ Citation Award 2022 (2018-2022)の選考プロセスを説明し了承され, 以下の 2 件の論文が推薦された。  
“Future changes in extreme storm surges based on mega-ensemble projection using 60-km resolution atmospheric global circulation model” By Nobuhito Mori, Tomoya Shimura, Kohei Yoshida, Ryo Mizuta, Yasuko Okada, Mikiko Fujita, Temur Khujanazarov & Eiichi Nakaita, Coastal Engineering Journal, 61:3, 295-307, 2019.

“Experimental study on the hydrodynamic impact of tsunami-like waves against impervious free-standing buildings” By Davide Wüthrich, Michael Pfister, Ioan Nistor & Anton J. Schleiss, Coastal Engineering Journal, 60:2, 180-199, 2018.

・JAMSTEC 中西賞の選考プロセスについて説明し了承され、以下の論文が推薦された。

“Future changes in typhoons and storm surges along the Pacific coast in Japan: proposal of an empirical pseudo-global-warming downscaling” by Masaya Toyoda, Jun Yoshino & Tomonao Kobayashi, Coastal Engineering Journal, 64:1, 190-215, 2022

・JAMSTEC 中西賞の推薦方式の経緯や CEJ Award との関連について質問と説明があった。JAMSTEC 中西賞の対象が日本人（日本に深い関わりをもち、日本を拠点に活躍する外国人も含む）であるため、CEJ Award の受賞者とは別に、JAMSTEC 中西賞の選考方法について今後検討することになった。

・CEJ Reviewer Award 2022 の選考方法について説明し、了承され 8 名の査読者が表彰されることになった。

・CEJ 契約・投稿などに関する変更点

掲載論文の義務は総ページ数から論文本数に変更。年間 37 編以上が努力義務となる。

Submission portal の変更：EM→T&F 管理の新サイト。2022 年以前論文は JEO サポート

著者からの potential/suggested Reviewer の推薦は受け付けない仕様になった。

新カテゴリー「Review Article」を導入予定

#### 沿岸域研究連携推進小委員会（遠藤小委員長）

・第 70 回海岸工学講演会での企画セッションの計画案について説明があった。

過去 20 年の沿岸域と小委員会の関わり、沿岸域研究の変遷、パネルディスカッション検討中  
現在は沿岸域研究レビュー作業中、企画内容の決定は 7 月予定

#### 広報・出版・WEB 開催小委員会（荒木小委員長）

・2023 年度メンバー体制（荒木小委員長→嶋原委員に交代予定 11 月）

・APAC2023 のオンライン関連担当について説明があった。

・海岸工学講演会のプログラム、広告募集、企業展示について説明があった。

・論文集の USB メモリの現地販売はなし（DVD もなし）の予定

・海岸工学・APAC の各講演の Zoom 録画について説明があった。

#### 研究小委員会、研究会、WG の活動について

(1)沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会（安田小委員長）

2023 年 3 月委員会：リアルオプションに必要な海岸工学からのアウトプットについて議論

(2)沿岸災害デジタルツイン研究小委員会（越村小委員長）

活動状況：全体委員会：2022 年 11 月、2023 年 6 月、Elsevier Book Chapter (January 2024)

のチャプター執筆企画・準備 活動実績や成果について説明があった。

(3)波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会（事前送付のみ）

(4)沿岸域における気候変動適応策に関する研究会（事前送付のみ）

(5)波動モデル研究会（事前送付のみ）

(6)地域研究活性化 WG（事前送付のみ）

## その他

### (1)土木学会論文集編集委員会・編集調整会議報告（山城小委員長）

・投稿要項への二重投稿関連追記について今後の方針（案）【資料 6-4】が示された。

2つの対応（1：投稿要領に規定を追加，2：投稿要領には盛り込まず，内規や手引きとして各小委員会で運用する）が示され対応2とし，各編集小委員会からの意見をもとに，編集調整会議で具体的な手引き案を提案することになった。

・異議申し立てに対応する仕組み及び二次出版および著作権規則改正について説明があった。英語論文を日本語論文として提出する場合の規則ができた。

### (2)水理公式集検討 WG 委員(水工学委員会)（山城委員）

・水理公式集例題集の第5編海岸・港湾の内容・著者とスケジュール，原稿準備状況について説明があった。

### (3)2022 年度収支報告（北野幹事長）

・昨年度の海岸工学委員会の予算・収入と支出について説明された。昨年度の予算執行に間に合わなかった分については，今年度の予算から支払うこととなった。

### (4)JSCE-CCES シンポジウム（北野幹事長）

・2023 年 10 月 25 日～28 日予定の中国開催のシンポジウムが延期され，日程調整について説明があった。日程案：3 月 18 日～22 日，4 月 17 日～21 日，4 月 24 日～28 日，5 月 8 日～12 日について海岸工学関係者にアンケート予定，水工学委員会との調整必要

### (5)サーバーセキュリティ対策特命 WG（川崎主査）

・さくらインターネット請求書発行手数料改定や新メーリングリストへの移行のための準備，管理・運用手引き作成等について説明があった。移行は 2023 年 7 月中旬を目途に。

・現行メーリングリストのユーザに移行時に意思確認を行う。

・各小委員会のメーリングリストにも対応する。

### (6)海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG（北野幹事長）

・特集号査読のための新システム対応について，WG の検討内容や幹事会の意見などについて説明があった。

・第1段査読を論文発表審査，第2査読を Jstage 論文審査と名称を変更する。論文発表審査は GoogleForm にて主査ならびに cec でスクリーニング（論文番号付与），Jstage 論文審査を EM で実施する。論文発表審査の要旨の評点は付けない。

・現行の幹事／担当編集員／査読者は，EM での副小委員長／主査／副査（2 名）に対応

- ・幹事長は、各論文に主査と副査（2名）を割付ける。副小委員長は、担当編集員（主査）をEMに登録（小委員長と幹事長が確認）。担当編集員（主査）は査読者（副査）をEMに登録。と同時に、幹事長は論文ならびに主査副査全てをidに変換した表を作成し、それを査読者に共有する。

- ・EMでの論文評点は通常号と同じ。4段階合計16点とする（従来特集号では5段階20点）。主査にはGoogleFormでの報告を求める。

- ・準備作業のスケジュール、GoogleFormを利用した投稿・論文選択・査読システム案、投稿審査フローおよびEM利用料についても説明された。

- ・8-9月特集号用EMのクローンサイト検証、9月幹事会で次年度の方法（詳細）決定、11月の海岸工学講演会（開閉会式、プログラムの広告欄、休憩中の掲示）やメーリングリスト&委員会HPで告知する。

- ・編集小委員会（11-12月）で副査向け内容を示す。

- ・投稿者向けに1月中旬（センター入試の翌週）にzoom会議（録画）で示す。

- ・主査には4月幹事会の午前に詳細の紹介&留意点を確認する。

- ・特集号の費用は現行より下がる見込み。

(7)その他

ICCE2024はローマ、ICCE2028開催について幹事会で検討予定

次回海岸工学委員会：11月15日（水）

以上